

# 評価項目

## • a) 困難な問題を解決している

- (高い技術力があり他の研究所のエンジニアと伍して行ける、創造的な技術を見出し成果をだしている、多くの課題を有機的かつ綿密に処理をしているなどもand/orで含めて評価することとしました)

## • b) 解決への努力をしている

- (継続して課題に取り組んできた、地道な努力が見える、業務遂行のパワーが強いなどもand/orで含めて評価することとしました)

## • d) 推薦技術はプロジェクトへの寄与が高い

- (唯我独尊ではない。「成果、機構への貢献」、「技術者としての貢献」。ビッグプロジェクトに参加しているとこの点が高いということにならないように気をつけるようにしました。それはプロジェクトの評価で対象の技官の技術の直接評価ではないからであります。)

## • e) 記録・報告など文書化がなされている

- (技術報告や論文でも、極力本人の行った技術そのものが記載されているものを高く評価することとしました。昨年度は木原前委員長が「**1篇の論文の裏に、10篇の技術報告がある**」といわれて、日常の技官の方々が、技術報告をキチンと出されることを強く主張し期待しておりました)

## • f) 本人の業務への取り組みは自律的、挑戦的である

- (与えられた仕事を忠実に仕上げていくということも大切ですが、この賞の対象はそれを越えた自律性やチャレンジングな業務姿勢も評価しようということとあります)

「1篇の論文の裏に、  
10篇の技術報告がある」

木原元央